

本書『憲法ガールⅡ』は、平成25年～平成30年司法試験公法系第1問(憲法)の問題を素材として、憲法事例問題の解き方を学べる小説です。

拙著『憲法ガール Remake Edition』(法律文化社、2018年。2013年出版の『憲法ガール』の改訂版)の続編という位置付けになります。『憲法ガール Remake Edition』を読まれてから本書に入ったほうが分かりやすいと思いますが、本書単体でも利用可能な作りしておりますので、その点をご安心ください。

本書の主な読者としては、「憲法の事例問題の解き方がわからない」というお悩みをお持ちの法学部生、ロースクール生、社会人受験生などを想定しております。もっとも、近年では憲法問題が社会的に大きく取り上げられるようになってきておりますので、我が国の憲法が実際の事例においてどのように機能するのかをお知りになりたい方にもお楽しみいただけるかもしれません。

本書の特徴は、次の4点になります。

第一に、小説形式で憲法事例問題の解き方を学ぶことができます。小説本文で司法試験過去問の解説をし、各章末尾に解答例を付しており、これらの点は従前の『憲法ガール』の特徴を引き継いでおります。

第二に、従前の『憲法ガール』が平成18年～平成24年の司法試験過去問までを素材としていたのに対して、本書は平成25年～平成30年の司法試験過去問を素材としています。司法試験を受験される学生の場合には、近年の過去問に取り組むことが重要になりますので、その点をフォローアップした形になります。

第三に、司法試験憲法の出題傾向の変化に応じた憲法事例問題の解き方のポイントを指摘しています。本文でも工夫した記述をしておりますが、本文に加

えて「ロキ先生のワンポイントアドバイス」という項目では、近年の出題傾向に即した憲法事例問題の解き方のポイントを解説しております。本文が年度ごとの縦串の解説であるとすれば、ワンポイントアドバイスは年度共通の重要事項を横串に解説している、といえるでしょう。特に、平成30年の問題では、訴訟・紛争を念頭においた主張・反論・私見を論じさせる方式から条例を制定する規制者側からの相談に対して法的見解を示すリーガルオピニオン型へと傾向が大幅に変わりました。リーガルオピニオン型問題の特徴についても、最終話及び「ロキ先生のワンポイントアドバイス⑥」でフォローアップしております。

第四に、司法試験過去問と関連する判例について、判例一覧として本書末尾に添付しております。従前の『憲法ガール』でも、この判例一覧は好評だったようです。もっとも、この判例一覧は本文を理解するための必要最小限度のもので、詳細な判例の内容を知りたい方は判例集をご覧ください。

本書の使用方法は様々です。単に小説として読むこともできますし、憲法事例問題の解き方を学ぶために読むこともできます。ただ、司法試験を受験される方は各年度の司法試験の問題を実際に解いてから、各章の本文を読まれることをお勧めします。実際に自分で悩み考えた後に、本文や解答例を読んだほうが、圧倒的に学修効率は高くなるでしょう。

本書が、読者の皆様の憲法学修の一助になれば、筆者として望外の喜びです。